

昨年末に企画され、コンディションが整わず延期されていた 第3回 Junior Youth Wave 選手権が3月24日遂に開催を迎えることができた。

当日の朝は大潮の満潮ということもあり、ほぼフラットコンディションながら、開会式のころにはレギュラーの西風は既に12mの風速となっていた。

干潮に向かい風がUPするとともに波はサイズアップすると判断され、チャレンジ・ジュニアクラス（小学生以下）とチャレンジ・ユースクラス（中学生以上）から開始されることになった。



チャレンジ・ジュニアクラスのリオ選手は今回最年少・小学2年生。

この年で御前崎ロングビーチに挑むこと自体が快挙だが、ヒートがスタートする頃には波は徐々にサイズアップし、チャレンジクラスの進行は危ぶまれた。

しかし、参加者は緊張の面持ちの中に挑戦する強い意志が見られ、運営サイドはヒート進行を決定。



恐らく何人かの子供たちはビーチスタートが出来ずに棄権してしまうのではないだろうか  
と危惧していたが、今大会は参加者全員がしっかりとアウトサイドに出て自分でビーチに  
戻ってくることができたことに驚きと感嘆の気持ちで一杯になった。

サイズアップした波は腰～たまに腹というサイズだが、小さな子供たちにとっては時に見  
上げる程の波のサイズだっただろう。

そのコンディションの中でもしっかりと波をとらえ、フロントサイドへのターンにもトラ  
イしたタクミ選手がチャレンジ・ジュニアクラスを制した。



2位は終始ジャッジ前のポジションをキープしてアピールしたミト選手。





ウェイブ経験は少ないが、非常に技術の高いアカリ選手が3位となった。



チャレンジ・ユースクラスはOWCの中学生対決。

ウェイブ経験に勝るカイト選手が普段の練習の成果を発揮し勝利。



2位はまだウォータースタートが不完全ながら、セイルアップでロングビーチに立ち向かったサラン選手。レスキューチームの完全バックアップ体制のもと、沖合でウネリに立ち向

かう姿が印象的だった。



風は更に吹き上がり、風速12m～15mのコンディションの中で小学生クラスと中学生クラスがスタート。

前はチャレンジ・ジュニアでアウトに出るのがやっとだった子供たちが、たったの1年で見違えるように成長した姿を見せてくれた。

小学生クラスを制したのは、果敢にフォワードループにもトライし、ウェイブライディングでも高得点を出し他の選手を圧倒したリュウ選手。

普段の練習ではフォワードループを決める、急成長の小学5年生。





2位と3位は非常に僅差の戦いで、結果はイーブン。

しかし2回目の結果が優先され、リョウマ選手が2位となった。

文字通り身の丈を超えるセットをつかみ、フロントサイドのターンを決めたときには、ビーチで観戦していた皆から拍手がわきあがった。



3位は練習意欲と強い気持ちが半端ないハルト選手。

フリースタイルも非常に上手い、将来が楽しみな選手だ。





中学生クラスになると、レベルはグンと上がる。

大人顔負けのフォワードループや激しいリップリング、そしてエアリアルまで飛び出すほどのヒートとなった。

このハイレベルな戦いを制したのはジャンプ・ウェイブ共にハイスコアを出してヒートを終始優位に進めた、中学1年生のハヤタ選手。



ファイナルでは波とのタイミングが僅かにかみ合わず、いつものパーティカルな波乗りを決めることができず惜しくも2位となったハル選手。中学2年生の彼が大会に求めるパフォーマンスは非常に高い。





調子を上げてきたリタ選手との敗者復活ラウンドに競り勝ち、決勝に駒を進めたサクト選手は丁寧な波乗りで得点を重ね3位入賞。



次の高校生クラスを控え、12時前にお昼の休憩のため一時大会は中断。  
お昼にはOWC PTAによる豚汁のふるまいが参加選手とスタッフへ行われた。



ヒートの再開時には風・波ともにアップし、風速はMAX 18 mに達し、波は胸サイズと、この後のクラスを行うには最高の、十分すぎるコンディションとなっていた。  
高校生クラスは生駒兄弟の対決。  
2回の対戦で結果はイーブンだったが、2回目のヒートの結果が優先され、ユウキ選手が優勝、アツキ選手が2位となった。







U21クラスはプロ予備軍がひしめく、超ハイレベルなヒートが続出した。セミファイナルで敗退したものの、ハル選手の高いバックループとリタ選手のスピードある波乗りは大いにジャッジを沸かせた。



毎年レベルアップと低年齢化の進むこの大会は日本のジュニア世代のレベルが急速に上がっている現実を如実に表していると感じる。ファイナルは非常に拮抗したヒートとなった。そしてハイレベルな戦いを制したのはユウキ選手。切れのある波乗りはプロクラスでも十分に戦えるレベルで、力強いリップングでハイスコアをメイク。ジャンプも含め、他選手を少しずつ上回る得点でU21の勝者となった。



2位には調子を上げて来て、失敗を恐れず何度もリップへのバーティカルなアプローチに挑んだハヤタ選手。わずかにユウキ選手に届かなかった。



3位はアツキ選手。セミファイナルまでは波乗りでハイエストスコアを連発したアツキ選手だが、ファイナルでは上手くセットが取れず、彼には悔しい結果となった。



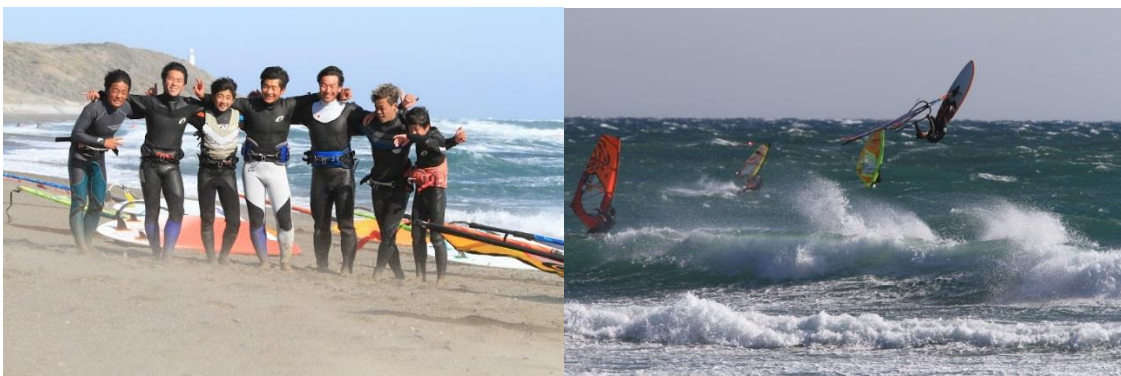




そしてイベントの最後には、今回ジャッジやスタッフとしてこの大会に協力してくれた小林プロ・橋本プロ・杉プロとU 2 1ファイナリストによる15分のスーパーセッションが開催された。

見ごたえのあるヒートは杉プロがヒート全体に躍動し、プロクラストップレベルの技を連発。流石プロという演技にギャラリーの目をくぎ付にした。

久しぶりのウェイブだと言っていた小林プロも、フリースタイルだけでなくウェイブの実力も証明するパフォーマンスを魅せてくれた。





そしてこのセッションのウイナーは橋本プロ。  
ヒート序盤の高いバックループと、終了前のダブルフォワードループで最もギャラリーを沸かせてくれた演技が勝因となった。

この大会にはレスキューに渚の交番スタッフ、そして野口プロがボランティアとして協力。  
2台のジェットスキーによる強力なバックアップ体制は、外洋に不慣れな子供たちにも大きな安心感を与えてくれる。



そして安全面の確保は、エキスパートのウインドサーファーが主になったビーチでのサポート体制により、より万全となっている。



関わる全ての人たちの熱い気持ちに支えられてきた大会は、無事3回目が終了となった。



次回開催に向けて、より沢山の子供たちを育て、受け入れることのできる体制を今後も構築していきたい。

実行委員長  
石井 久孝

渚の交番で開催された表彰パーティーの様子



